

## 令和3年度 社会福祉法人泉学園事業報告

昨年に続くコロナ禍の中で一年が終わった。なかなか収まりを見せない中ではあるがマスク着用を始めとした感染対策を取りつつ、社会活動の再開が模索され、徐々に戻りつつある。当法人では昨年に引き続き生活や行事等の取り組みに大きな制約をもった一年が経過した。

法人内でもいくつかの事業所で通所においては数日の閉所を迫られたり、新年度に入って、泉の園で陽性者が出、クラスターと認定、保健所の指導を受けながらその対策に追われる日々となった。生活支援施設の感染防止の難しさを改めて感じたことであった。

「星ふる福祉の郷」と名付けた赤磐の4事業所は、入院中の利用者さんが急変しお亡くなりになるという辛いこともあったが、皆さんの笑顔と関係者のご協力をいただき無事に一年が推移した。

短期入所「輪家」、児童発達支援、放課後等デイサービス「いちばんぼし」の利用も当初の予想を超えて取り組みが進んできたように思われる。

岡山市基幹相談支援センターへの派遣も一年が経過した。南相談支援センターから村上さんが当センターの責任者として出向、もう1名、日々出向する中で業務に当たっている。岡山市の基幹相談支援センターとしての重要な役割を果たしてきた。

新卒者の応募が少ない状況はこの一年も続いた。新卒者に魅力ある職場としてあるよう、現に働いている職員がやりがいや働きやすさを感じられる職場へ議論を深めていく必要がある。

### I. 法人運営の柱に沿った振り返り

#### 1) 皆さんの支えてとして人材の確保

人材の確保がここ数年は大きな課題となっている。中途退職者が数名ある中、その補充に苦慮する状況が続いている。特に、夜間支援を伴う生活支援施設は補充が進まない状態が続いている。職安はもとより求人サイトや求人誌、福祉の総合就職フェアなど、機会あるごとに求人に当たってきたが、なかなか成果は上がっていない。

#### 2) 地域社会に息づく泉学園として

今年度もコロナ感染禍の中で地域的な取り組みやボランティアへの働きかけは概ね控えてきた。利用者の方々にとって楽しみや繋がりのある取り組みをこの間多くを見合わせてきている。事業所によっては、ボランティアの受入れや地域の方との話し合いなど今後に向けた取り組みを実施したところもある。

#### 3) 将来に繋がるよう経営の安定を図る

厳しい経営状態が続く一年となっている。今年度はコロナ感染の影響でいくつかの事業所で休所が重なり、お休みされる方も多くあり、利用料の減収に繋がった。デイセンターなずな赤磐が初年度で運営的に厳しかったこと（従来から人件費を中心に経営的に厳しい現状があった）、繰入でカバーしてきた泉の園やふれあいの通所事業所も難しくなっており、なずな赤磐を始めとした法人全体での経営の安定に向けた改善策が求められている。

### II. 柱に沿った具体的な取り組み

#### 1) 人材の確保に向けて

##### ○職員採用及び待遇の改善に向けて

今年度は4度にわたる募集を行うと共に、随時求人を出し採用を図ってきた。新卒者3名と既

卒者 11 名の応募があり、新卒者 2 名、既卒者 7 名計 9 名の採用であった。ここ数年新卒者の採用が数名に止まっている。

求人に向けた取り組みとしては福祉の総合フェア、職場見学会、就職ガイダンス講師派遣、インターンシップやホームページでの案内など、様々な機会をとらえて活動を行った。結果は前述のとおりである。

#### ○待遇の改善

従来からの処遇改善手当、その他特定手当に加え、この 2 月から新たに設けられた「福祉・介護職員処遇改善臨時特例交付金」の制度を活用し、常勤者で月 7,200 円をその他手当として支給している。

#### ○当事者のニーズに応え、そこに関わるスタッフも夢をもって働ける泉学園へ

スキルと魅力ある支援スタッフへの成長が何よりも求められている。今年度も職場の人間関係の調整、風通しのよい職場づくりに向けて各事業所でその都度努力してきた。

コロナ禍にあり Zoom での研修が多かったが、それぞれ研修実施した。

以下、今年度法人研修の実施内容である。

#### ○職員研修の実施

今年度も各階層別の研修を企画し実施した。

初級者研修 ～令和 3 年 8 月 4 日（水）Zoom 開催 24 名

「泉学園の理念」の理解と理念に基づいた支援の振り返り

中級職員研修～令和 3 年 9 月 16 日（木）Zoom 開催 21 名

事例を題材とした本人主体の支援の理解

新任職員フォローアップ研修～13 名

自身のキャリア形成を意識する

令和 4 年度新任職員研修～14 名

法人の理念及び職員として求められる価値と知識を高める

振り返りシートを使い、研修の押さえとした。法人内交換研修は今年度、組織だった取り組みとはならず終わった。

#### 2) 地域社会に息づく泉学園として

- ・地域のイベント参加や作業製品販売、啓発の取り組み等も抑えてきた一年であった。新たに開設した赤磐での事業では赤磐農業マルシェや英国庭園バザーなど新しい取り組みも一部始まっている。
- ・感染の収束や拡大が繰り返される中で一年が経過した。一昨年までの地域に向けた取り組みやボランティアの導入は現状況下で今年も進まなかった。交流や旅行に変わって事業所内で旅行気分を味わったり、一部ボランティアの方に来ていただいたりと、感染禍の中でも皆さんが楽しめるものをと工夫ある取り組みが続いた。コロナ感染が収束した暁にはぜひ活発な地域参加や交流活動を展開していきたいと考えている。
- ・地域公益的活動の推進が求められている。従来からの福祉有償運送事業や瀬戸繋がり隊の活動は引き続き取り組まれてきたが、赤磐での地元との話し合いの中で新たな地域貢献を模索中である。

・泉だよりの発行

今年度も2回の発行を行った。9月号(42号)、3月号(43号)それぞれ1,200部発行。  
各事業所でも事業所だよりを発行しているところもある。地域と様々な方々と繋がり、理解を広げていく大切な活動として広報活動を継続していく。

3) 安定した経営基盤を作っていく

- ・報酬改定の年度であったが期待されたものはなかった。前述したように新型コロナ陽性者が複数の事業所を出、数日にわたる休所や一定期間のお休みをお願いすることがあり、著しく収入減となった事業所があった。
- ・なずな赤磐や玉柏など重症心身の方々の事業所での経営的な厳しさが続いている。支援の性格から多くの人の手を要することで人件費率が非常に高い状況がある。支援の手が多く必要なことは前提の中で、今後を考えるとスタッフのパート化を進める等改善を図ることも考えていく必要がある。
- ・常に経営的に厳しい事業所をどう体制として整えていくか検討を進めていかなければならない。

III. 施設整備、補助金等(主なもの)

補助金関係

現況報告で掲載したものは省略

- ・障害福祉サービス事業所等感染防止対策補助金(防止に向けた衛生用品等)各事業所全体で15万円ほどの補助金を頂く。

IV. 法人設立30周年記念事業について

新型コロナ感染の中で検討が進んでいない現状である。感染状況を踏まえつつ設立30周年を記念する取り組みについて、皆さんと検討していきたい。

V. 法人役員会の実施等

令和3年4月30日 理事会・・評議員選任解任委員の選任、評議員候補者の選定等

令和3年6月10日 理事会・・2020年度事業報告、決算報告、定款の変更、諸規程の変更、  
理事、監事候補者の選定等

令和3年6月25日 評議員会・・2020年度事業報告、決算報告、理事、監事の選任、定款の変更

令和3年6月25日 理事会・・理事長の選定等

令和3年11月15日 理事会・・2021年度上半期現況報告、補正予算、諸規程の変更、  
管理者(施設長級)の変更等

令和3年11月25日 評議員会・・2021年度現況報告、補正予算

令和4年3月16日 理事会・・2021年度補正予算、2022年度事業計画、当初予算、諸規程  
の変更、管理者(施設長級)の変更等

令和4年3月25日 評議員会・・2021年度補正予算、2022年事業計画、当初予算

指導監査等

- ・令和4年2月21日 泉の園の指導監査、指摘事項無し
- ・デイセンターなずな赤磐等4事業の実地指導が昨年12月に予定されていたがコロナの影響で延期、この7月に予定

## 令和3年度【泉の園】事業報告

はじめに

令和3年度も新型コロナウイルス感染症対策に迫られた一年であった。春先からの第4波、夏場をピークとした第5波、年明けからの第6波と、その都度感染者数に一喜一憂し緊張を強いられる日々が続いた。年間を通して検温や消毒、換気、マスク、ゴーグルの着用、大きな行事の中止や外出等の制限、ワクチン接種等の感染症対策を継続して行っていたが、令和4年度に入ってから、泉の園で初めての感染者が確認された後クラスターが発生するという事態に見舞われ、ご利用者はじめ皆様にご心配、ご負担をおかけすることとなり、大変申し訳なかった。改めて感染症対策や感染者が確認された場合の初動対応等の見直しを行い、感染症予防と万が一感染者が発生したとしても感染が広がらないようにしていくことに注力していきたい。

職員体制に関しては、令和3年度も人材の確保が大きな課題であった。特にローテーションが可能な女性の求職者がほとんどいない状況で、同性介助を原則としているが、食事や余暇支援等は男性の生活支援員の協力が不可欠となっている。人材確保や定着、育成についてしっかりと議論を重ねて対応策を検討していく必要がある。

### 1 利用者状況(3/31現在)

障害支援区分	6-40名	5-16名	4-1名	平均障害支援区分	5.6
在籍数	生活介護-57名	施設入所支援-45名			
平均利用率	生活介護-88.3%	施設入所支援-97.0%	短期入所-5.6%	日中一時-11.0%	
平均年齢	生活介護-45.4歳(通所者-31.5歳)	施設入所支援-49.1歳			

### 2 グループ活動領域

新型コロナウイルス感染防止のため、活動は原則入所(男性)・入所(女性)・通所に分かれて行った。

活動内容は音楽鑑賞、DVD鑑賞、散策、空き缶回収、空き缶プレス、創作、水やり、ストレッチ、個別活動等で、それぞれ極力3密を避け小規模で行うようにした。

新型コロナウイルス感染防止のため中止していたミュージックタイム(音楽療法)は、11月より講師の方とオンライン形式により少人数で再開している。しかし年明けから感染者数が増加したため、3月以降再び中止せざるを得なくなった。

全体で集う行事等も中止せざるを得なかったが、代わりに施設内で定期的に「コロナに負けるな!!」イベントを開催した。各領域等で分担し、コロナ禍でも楽しめるよう少人数ずつで3密に配慮しながら工夫を凝らして実施した。グループ活動領域は8月、9月を担当し、企画、実施した。東京オリンピックが開催されたので、「ミニオリンピック in 泉の園」と題してサッカーやバスケットボール、ソフトボール競技を体験する等、体を動かして楽しい時間を過ごした。

### 3 自治会領域

代議員 利用者の代表として5名のメンバーが様々な役割に意欲的に取り組まれていた。

代議員会 金曜日(9:30~10:30)-寮内パトロール、行事の計画や立案、掲示物作成等を行った。

ホームルーム 月曜日午前一代議員が皆の意見を聞いたり、行事についてのお知らせ、代議員会の報告等を行ったりした。

行事 誕生会(毎月第4水曜日)を企画し実施した。新型コロナウイルス感染防止のため全体では行わず、棟毎に分散して行った。

「コロナに負けるな!!」イベントを9月、1月に企画し実施した。9月は東京オリンピックの名場面を写真で振り返り、オリンピックの雰囲気を感じた。1月は泉神社を開き、初詣をしてお

みくじを引く等楽しい時間を過ごした。

当 番 活 動 ペットボトルキャップの回収・納品を行った。

ア ン ケ ー ト 外部の方に来ていただいて実施する利用者アンケートは中止せざるを得なかった。

#### 4 余暇・文化領域

活動予定作成 月計画、週計画、土・日・祝祭日及び長期特別活動時の余暇計画を作成した。

買 い 物 新型コロナウイルス感染防止のため中止した。

ク ラ ブ 金曜日午後－お茶、絵画、運動等の活動を棟毎に分散して行った。

行 事 花見・母の日の手紙(4月)、端午の節句(5月)、父の日の手紙(6月)、七夕(7月)、納涼大会(スイカ割、カキ氷)・お楽しみパーティー(8月)、ハロウィンパーティー(10月)、年賀状作り(12月)、書き初め・とんど焼き(1月)、節分(3月)等の行事を行った。

その他年間を通じてカレンダー作り、壁面飾り作成等を行った。

新型コロナウイルス感染防止のため、行事は全体では行わず、棟毎に分散して行った。

ビューティータイム 女性利用者を対象として、身だしなみ・ネイルケアを月1回実施した。

#### 5 生活領域

基本的生活習慣の支援－障害特性、加齢等の状況を考慮し、利用者の個別支援指針を作成して職員間の共通認識とした。

生活班講座－利用者を対象に、新型コロナウイルス感染防止のため、手洗い・感染症予防についての学習会を行った。

リラクゼーションタイム－新型コロナウイルス感染防止のため中止した。

#### 6 保健・看護領域

通院件数－727件(昨年度614件)、訪問歯科件数－232件(昨年度194件)

入院日数－利用者2名48日(昨年度利用者2名36日)

健康診断一年2回(8月、1月)実施、がん検診受診(39名)、検便一年2回実施

インフルエンザワクチン接種－11月(54名)

新型コロナウイルスワクチン接種

－1回目 7月(53名)、8月(1名)、10月(1名) 計55名

－2回目 7月(44名)、8月(9名)、9月(1名)、10月(1名) 計55名

－3回目 2月(51名)、3月(2名) 計53名

新型コロナウイルス感染症対策として今日に至るまで継続して行っていること、感染拡大の状況を勘案して内容を変更しながら行っていることがあるが、現在実施している主な新型コロナウイルス感染症対策は次のとおりである(インフルエンザ、ノロウイルス等の感染症対策と一部重複)。

- ・検温の実施等による体調把握
- ・マスクの着用、ゴーグルの着用(支援中)、手袋の着用(必要に応じて)、ハンドソープによる手洗い、手指消毒の徹底
- ・共用部分の消毒、定期的な換気の実施
- ・施設内への立ち入り制限(条件付きで許可)、来訪者の連絡先等の把握
- ・面会、外出、外泊の制限(いずれも条件付きで許可)、オンライン面会の実施
- ・通所による生活介護、短期入所、日中一時利用の制限(いずれも条件付きで許可)、新規利用者の受け入れ中止
- ・活動内容の見直し、変更
- ・食事の分散摂取等支援方法の見直し、変更

- ・マスク等感染症対策に必要な物品の購入、備蓄
- ・低濃度オゾン発生装置の設置(大2台、小9台、ポータブル2台)
- ・水栓取替(支援員室2ヶ所、職員室、事務室等)
- ・アルコールディスペンサーの設置数増
- ・対策会議の実施、マニュアルの作成、利用者及びご家族・職員宛の依頼文書作成・配布

等

## 7 給食委員会

年4回、管理栄養士を中心に関連職種職員や給食委託業者の栄養士等と給食内容等の検討を行った。献立は管理栄養士と給食委託業者の栄養士等が毎月原案を元に話し合いを行って作成した。

食事形態

刻み無しー26名

刻み有りー19名(一口大(主菜、芋類のみ2cm)ー4名、一口大(2cm)ー3名、荒刻み(1cm)ー5名、極刻み(5mm)ー4名、ミキサー(とろみ付き)ー3名)

その他にも利用者の状況(肥満、アレルギー、消化不良、摂食不良等)に応じて主食の形態変更(全粥、マンナンライス、麺の刻み)やご飯の計量、アレルギー食材の除去、代替食等の個別対応を行った(個別対応が必要な方が年々増えている)。

リクエストメニューは6月、11月、2月に実施した。

インフルエンザ対策として11月～3月の平日は牛乳をR-1ヨーグルトに変更して提供した。

栄養健康状態の維持、向上を図ることを目的に栄養マネジメントを継続し、個々に栄養ケア計画を作成して栄養に関するケアとマネジメントを行った(入所利用者対象)。ー高リスク3名、中リスク15名、低リスク27名。

## 8 防災委員会

避難訓練ー6月、7月、8月、9月、11月、2月に計6回実施した(夜間・夜間想定、風水害、地震・津波の訓練含む)。

岡山南消防署との合同訓練を計画していたが、新型コロナウイルス感染防止のため中止した。

救急法学習会ー新型コロナウイルス感染防止のため中止した。

避難確保計画を作成した。

## 9 虐待防止委員会

職員に虐待防止チェックリスト等を使ったアンケートを年3回実施し、人権擁護(虐待防止)に対する意識の向上を図った。

実習生にもアンケートを行い、外部からの視点で意見をもらうことで職員の気づきに繋げていった。

人権擁護(虐待防止)に関し、全職種の職員が参加する学習会を4月に実施した。

## 10 地域交流委員会

地域交流行事の企画・実施ー泉まつり、お飾りづくりは新型コロナウイルス感染防止のため開催を中止した。泉まつりはできなかったが、10月に「Spring festival」を企画し実施した。利用者と職員だけでの開催となったが、テントを立ててミニ屋台を開き、楽しい時間を過ごした。

地域行事への参加ー新型コロナウイルス感染防止のため開催自体が中止された。

ボランティア受け入れー新型コロナウイルス感染防止のため受け入れを中止した。

ミュージックベルー新型コロナウイルス感染防止のため練習を中止した。

町内会活動ー浦安本町町内会賛助会員として廃品回収への協力を行った。

#### 11 介護技術スキルアップ委員会

KGU(介護技術アップ)通信を発行し、快適な生活環境作りやボディメカニクスの基本等について啓発していった。

#### 12 苦情解決委員会

苦情解決及びリスクマネジメント等に関する取り組みを行った。

ヒヤリハット	投薬関係－13件(昨年度5件)、離園及び所在確認ミス－1件(昨年度2件)、 転倒－6件(昨年度13件)、利用者間のトラブル及び粗暴行為－3件(昨年度12件)、 その他－12件(昨年度12件)
事 故	投薬関係－18件(昨年度33件)、離園－3件(昨年度3件)、転倒－18件(昨年度9件)、 利用者間のトラブル及び粗暴行為－2件(昨年度11件)、その他－16件(昨年度7件) ※内、通院・入院を伴う事故－6件(昨年度7件)～内4件は1台の公用車に同乗中の事故
苦 情	0件(昨年度0件)

#### 13 会議研修委員会

各領域、委員会、係における方針、中間、総括会議、個別検討会議等の全体会議の開催や各種会議の運営方法の検討を行った。新型コロナウイルス感染防止のため対面での全体会議は原則中止し、少人数又は資料を基に書面形式で行った。

施設内研修(協力歯科医療機関による学習会、嘱託医による学習会)は新型コロナウイルス感染防止のため中止した。

#### 14 施設外研修(オンライン研修含む)

- 4月 社会福祉施設等における感染対策及びクラスター発生時の対応について
- 6月 会計職員実務研修
- 8月 岡山県知的障害者福祉協会第1回障害者支援施設部会施設長会  
サービス管理責任者・児童発達支援管理者更新研修  
岡山県特定給食施設関係者研修会  
安全運転管理者講習
- 9月 岡山県民間社会福祉従事者共済制度改正説明会
- 10月 全国知的障害関係施設長等会議
- 11月 公正採用選考人権啓発推進員研修会
- 12月 新型コロナウイルス感染症感染予防研修会
- 1月 新型コロナウイルス感染症感染予防研修会
- 3月 人権・倫理委員会研修会

※その他経験年数、職責等の対象別に実施された法人内研修に参加した。

#### 15 行事

1日社会体験旅行－11月～12月にかけて、利用者3～6名と職員2～3名の小グループでサウスヴィレッジに出かけた。

クリスマス会－全体では行わず、棟毎に分散して行った。

#### 16 施設実習

県下大学・短大より3名(昨年度2名)、年間30日(昨年度20日)の受け入れを行った。

17 短期入所及び日中一時支援

短期入所一のべ利用者数61名(昨年度308名)、日中一時支援一のべ利用者数80名(昨年度65名)の受け入れを行った。

18 多目的ホールの貸出

新型コロナウイルス感染防止のため貸出は中止した。

19 施設等整備

水栓取替工事

省エネ改修工事(浄化槽)～全国浄化槽団体連合会の省エネ型浄化槽システム導入推進事業「令和3年度二酸化炭素排出抑制対策事業費等補助金」の交付を受けて整備を行った。

支援員室キッチン改修工事

伝送ユニット、スイッチ等取替工事(電気設備)

高圧機器碍子取替工事(電気設備)

厨房トイレ改修工事

エアコン取替(居室3部屋、男性支援員室)

ガステーブル取替(厨房)

耐火金庫取替(事務室)

20 指導監査

令和3年度社会福祉施設指導監査一2月21日

<指摘事項> な し



## 令和3年度【ネイチャーファーム】事業報告

はじめに

今年度もやはり新型コロナウイルスの感染拡大や感染防止対策が事業活動に様々な影響を及ぼした一年であったように感じる。特に就労支援事業活動においては依然見通しの立たない状況が続いている現状である。今後はウィズコロナへシフトチェンジし、変わってゆく世の中の流れをうまく引き寄せられるよう、利用者、職員それぞれが限られた環境の中で創意工夫し、協力し合いながらなんとかコロナ禍を乗り切っていきたい。

### 1. 運営について

管理運営、支援体制の状況

職員配置 7.5 : 1

今年度も各工房共に就労支援事業により、利用者への賃金支払いを行う事業所として日々の売り上げ目標や将来を見据えた取り組みを継続したが、各種イベントや地域行事等の中止が相次ぎ、収益面では減収が続いている。新型コロナウイルス感染防止対策については設備整備や意識向上のための取り組みを継続している。

花工房では受注販売の売り上げの伸びが継続して見られ、コロナ禍により催事での販売が軒並み中止になるも、前年を上回る売り上げを確保することができた。支援体制については、5月より職業指導員として利用者支援経験のあるパート職員を1名雇用している。しかし今年度も繁忙期に期間契約で入ってもらう予定だったパート職員2名は、それぞれの事情により年度途中からは入ってもらうことができなかった。

パン工房では競合店の参入や、安定した収入の見込めていた病院の売店等主な販売先が営業時間の短縮、外来者の制限を行ったこと等により売り上げが低迷している。少しずつ顧客の戻りが見られる取引先もあるが、やはり新型コロナウイルス感染防止対策により学校関係の販売や大きなイベント等が軒並み中止となっており、売り上げの減少が続いている。また最低賃金の引き上げや有給休暇取得の増加、材料費の高騰等の影響で費用は増加しており、商品の価格設定を見直す準備をしている状況である。

全体ではコロナ禍によりリモート研修が多様化され事業所での研修参加が可能になったことで、空き時間を活用して知識や技術の取得に力を入れることができた。パン工房では経営改善と工賃向上を図るため、岡山市障害福祉課のブラッシュアップ事業によりデザイナーの方と店舗集客のための環境作りや商品ラベルのデザイン企画に取り組んだ。日々積み重ねてきた成果への評価を実感できたり、設備環境を整えたりする良い機会となった。

### 2. 利用者の状況について

定員20名 現員19名

花工房 5名ー (男)4名 (女)1名

パン工房14名ー (男)9名 (女)5名 (うち女性2名は短時間契約者)

花工房では高齢により夏場の体力低下が著しい利用者には体調を考慮した勤務や活動をしてもらっている。また精神的に悩みの多い利用者には継続した話し合いを行い、家庭や医療機関とも連携し無理のない活動をしてもらう等の配慮を行った。

パン工房では無断欠勤への対応や健康、生活面での悩み、金銭の管理等に関する個別の支援を家族や関連事業所の職員等と連携して行った。また今年度アパートでの一人暮らしを始めた利用者がおられるが、様々な困難を乗り越え現在も地域での生活を継続することができている。

### 3. 就労支援事業の内容

花工房

花苗・野菜の育成栽培、ハウス（作業場内店舗）での販売、法人内事業所での委託販売、バザー委託販売、岡山市指定配布（年4回）、市場出荷、生産者・業者への卸、学校・地域・各種団体からの受注、仕入れ業、植栽の請負等を行った。

#### パン工房

製パン・製菓（焼き菓子等）の製造、店舗販売、バザー委託販売、病院・施設・学校売店への卸・委託販売、学校・地域・各種団体からの受注、移動販売等を行った。

花、パン工房共に賃金は引き続き最低賃金減額特例許可申請により決定し支払いを行っている。今年度は岡山県の最低賃金が28円引き上げられて862円となっている。それに伴い利用者の賃金額も10月に改定し、現在時給は513円～610円となっている。

### 4. 支援内容

#### 職業指導

花工房では商品管理への意識や作業技術向上の支援を継続して行ったが、各自の作業量に偏りが見られることがあった。個々の能力に差はあるものの、作業に対して皆で協力してやり遂げるといった意識の向上に向けた支援が課題であった。

パン工房では生地のみキシングから焼成まで、パン作りのおおよその過程を利用者主体で行うことができるようになっている。しかし就業時間が増加傾向にあり、効率的な作業の検討と適正な労務管理による労務費の削減が課題であった。

#### 生活支援

両工房共に個別支援計画に沿って健康や精神面でのケア等個々に必要とされる支援を行った。今年度も利用者を主体として作業や生活面に関する話し合いを各工房で行うことができ、自主的な行動や発言が見られている。また各利用者の生活環境に携わる家族や関係者との連携により様々なケースの問題解決をその都度行っていった。

### 5. 施設等整備について

花工房では加温ハウスの自動開閉装置制御盤の取り替え、台風で破損したビニールハウスの張り替え、ボイラーファン故障による修繕、各ハウスの水廻り設備の修繕を行った。またトラクターを寄贈していただいたので、収納用ハウスの間口改修を行った。

パン工房では食パンスライサーのベルト貼り替え、ホイロ湿度計交換、ミキサー回転軸の取り替えを行った。

### 6. 勤務計画について

花工房では繁忙期、閑散期に応じて流動的に勤務を作成した。

パン工房では各々の通勤手段、作業能力、技術を考慮したローテーション勤務を作成し、必要であれば勤務の変更を本人、ご家族の同意のもとに行った。

### 7. 防災関連

避難訓練を4回実施した（火災2回、風水害1回、地震1回）。また避難確保計画の作成を行った。

### 8. リスク管理

ヒヤリハット、事故報告の徹底を心掛け記入を呼びかけた。また商品へのクレーム、問い合わせにも対応した。事故原因や対策を考えて再発防止に繋げることができるよう、作業現場の事故報告書にその都度記入することで意識の向上を図った。

## 9. 保健看護

健康診断（年1回）、インフルエンザワクチン接種、ストレスチェックを実施した。

新型コロナウイルス感染症対策として、検温、施設内消毒、換気、マスクの着用、手洗い、手指消毒の徹底、アクリル板やパーテーション、手指消毒器の設置等を行った。またワクチン接種の呼び掛けを行った。

## 10. 自治会

利用者主体でアンケート等も取り入れ、花工房では新型コロナウイルス感染防止に配慮しながら外食での慰労会、パン工房では食事会（各自テイクアウト）を行った。

## 11. 苦情及び事故

苦 情 ・パン工房で異物の混入(髪の毛1件、虫5件)、商品不備（形1件、異臭1件）の苦情を受けている。

事 故 ・パン工房の利用者、職員が工場内で転倒する。

## 12. 家族会活動

例年通りの定例会議の他、パン工房で作業ボランティアや環境整備をしていただいた。

## 13. 地域活動

新型コロナウイルス感染防止のため中止した。

## 令和3年度【桑野フレンドリーハウス】事業報告

### 1. はじめに

今年度は緊急事態宣言、まん延防止等重点措置などが度々発令され、新型コロナウイルス感染症の対策に追われながらの1年となった。ご利用者の日常生活は制限されることが多い中で、10月以降には一時的ではあるが感染者が減り、ランチ外出等をする事ができた。また、地域との活動が少ないなかで、地域のフラダンスのボランティア（アロハノア）とつながることができた。月に1回程度来ていただき、ご利用者の楽しい活動となっている。新型コロナウイルスが終息し、自由に活動できる日は見通せない中で、年間を通して小グループに分かれて行事を行う等、ご利用者の笑顔が増えるように支援者が工夫を凝らして活動した。

管理運営については、2月4・5・7日の3日間、職員にコロナの陽性者が出たため休業することとなり、ご利用者、ご家族にご迷惑をおかけすることとなった。それ以外の日は比較的人数の多い事業所ではあるが、ご利用者、ご家族の感染予防意識が高く、また職員についても行動自粛等の対策に取り組んでいき、開所を継続する事ができた。

最後に事業所の課題として、ご家族の高齢化によりこれまでの生活の維持継続が難しくなっている家庭が増えている。相談支援事業所等と連携して、いざという時にも支えられる態勢をとっていく必要がある。

### 2. 利用者の状況及び活動状況

○定員 40名 契約者数 46名 (3月末 45名)

・1月10日女性利用者1名が急性腎不全のため急逝されたため45名となっている。

○開所日数 前年度同様 269日 原則日数 269日

・職員に新型コロナウイルス感染症のPCR検査で陽性者が出たため、2月4・5・7日の3日間を休業している。職員については、4日は出勤し職場、送迎車等の消毒を行った。5・7日については、役職者を除き自宅待機とした。

○定員に対する利用率 **94.8%** (101.7%) ()は昨年度。

○介護給付費の動向 **122,308,184円** **97.3%** (前年度比)

・今年度は重度障害者支援加算の申請については、4月～11月は10名、12月～3月は20名を申請している。(今年度の強度行動障害基礎研修に7名、実践研修に2名参加し加算申請を増やすことができたため。)

○利用者の状況

・コロナの陽性者が出て2月4・5・7日を休業としたため、自宅で過ごしていただくこととなりご迷惑をお掛けすることとなった。その他、コロナの影響で数名の方が自宅待機されたり、事業所より自宅待機をお願いをした方があった。  
・泉の園やグループホーム等の短期入所の利用が、親御さんの病気等のため増加している。

また、親御さんの急な入院のため、グループホームの体験利用をして入院期間を過ごした方もおられた。

- ・健康面では、夏場に体調を崩し肺炎、水中毒、腸閉塞等で入院された方や医療保護入院された方、冬場に肺炎のため毎日点滴に通われた方、発作が増え休まれた方等がおられた。
- ・今年度はインフォーマルな「ごろちゃん」の利用はほとんどなく、家族会の方々が経費等がかかっていることもあり今後の「ごろちゃん」のあり方について、検討されている。

#### ○活動状況

- ・活動の基本的内容は昨年度を踏襲したが、コロナウイルス感染症の流行により、外出、買い物、一日社会体験等の行事は取りやめた。また、カラオケについては感染状況によりYouTubeで映像を流しマイクを使わずに行い、散策では車に乗る人数を減らし、人の少ないところを選ぶなど配慮した。
- ・七夕会、お月見会、クリスマス会や豆まき等の年間行事は、全体の行事としてではなくグループ単位で実施した。
- ・地域のさくらまつり、ふれあいまつりは中止となった。2月2日～15日まで小さな美術館で日頃の創作活動等の展示を行った。展示自体は素晴らしく、多くの方にみていただきかったがおかやまふれあいセンターの天井の工事の時期と重なったことや、コロナの感染者が多かった時期であったため見学者が少なかった。

#### 3. 管理運営・職員支援体制の状況

- ・職員配置はフレンドリーハウスについては3:1とした。今年度も職員の入れ替わりはあったが、退職する職員が何ヶ月も前に退職の意向を伝えてくれたため、職員の補充は比較的早くすることができ、現場への影響も昨年度よりは少なかった。
- ・2月4・5・7日については、職員にコロナ感染者が出たため休業とした。また、職員の家族がコロナ感染し職員が濃厚接触者となり、コロナ対策で職員に自宅待機を要請することがあり、現場に影響が出ることがあった。
- ・重度障害者支援加算の要件である強度行動障害者支援者養成研修の受講について、基礎研修7名、実践研修2名が参加し、資格者は9名となった。4月からは10名、12月からは20名の利用者の加算請求を行っている。
- ・昨年度は男性スタッフが不足していたが、年度当初の異動で男性職員が増え、男性職員の不足感は無かった。ご利用者の高齢化、重度化に伴い、年々食事や排泄の介助等が増えてきて現場職員がもう少し欲しい状態の日もあった。
- ・ZOOM等を利用したオンライン会議や研修が多くなっているため、有相談室・会議室のLAN配線工事を行った。その後の会議や研修に利用している。
- ・**利用者の支援区分の内訳 6-19名 5-19名 4-8名平均支援区分 5.2(3月末5.19)(前年度5.16)**

#### 4. 苦情及び事故

苦情 0件

意見 1件

・家庭で体調が安定しない日に、通所後調子が良かったのでコスモス畑へ散策に行ったこと  
に対して散策へ行かずに様子を見て欲しかったとの意見。

⇒普段と違う行動をする際には、連絡帳で家庭と連絡を取ることを徹底した。

重大事故 1件

・散策中に転倒し前歯を折ることがあった。(岡山市に報告)

ヒヤリハット 事故5 他害行為7 所在不明1 転倒等9 盗食盗飲3

服薬ミス4 ミス13 その他1

### 令和3年度【桑野ワークプラザ】事業報告

#### 1. はじめに

今年度も緊急事態宣言、まん延等重点防止措置等が度々発令される中で、地域の行事やバザー等が軒並み中止となり、食品等の売上げが減少している。コロナ禍で自主製品の売上げが減少する中、ご家族などをお願いして売上げにご協力をいただいた。

売上げについては今年度も減少したが、ご利用者の減少もあったため、1人当たりの工賃自体は昨年度と同程度となった。働くことを生きがいに頑張っている方がおられる中で、作業から生活や心のケアへとその比重が移りつつある方もでてきている。事業所としてサービスの変更等、ご本人、ご家族と十分に話し合いを持ちながら考えていく必要もでてきている。

また、ご利用者ご家族の加齢により生活自体がこれまでのようになくなったご家庭もある。今年度から新たに相談支援に入っていた方もおられる。ご家族に何かあった時に、相談支援専門員等と連携して、ご本人の支援ができる態勢を整えていきたい。

#### 2. 利用者の状況及び活動状況

○定員 20名 契約者数 21名 (3月末時点の契約者 19名)

・5月に男性利用者1名が亡くなられ、12月半ばに脳梗塞になり入院した方が1月に退所されたため、3月末時点の契約者が19名となった。3月に体験利用した男性利用者が4月1日より契約することとなり、4月からは契約者は20名となる。

○開所日数 前年同様 269日 原則日数 269日

・2月4・5・7日について職員に新型コロナウイルス感染症のPCR検査で陽性者が出たため、休業している。職員については、4日は出勤し職場、送迎車等の消毒を行った。5日、7日については、役職者を除き自宅待機とした。

○利用率（定員緩和率） 85.2%（前年度 98.2%）

○訓練等給付費の動向 40,588,477 円（前年度対比 88.0%）

○利用者の状況

- ・2月4・5・7日については、コロナ感染者が出たため休業としたため、自宅で過ごしていただくこととなりご迷惑をお掛けすることとなった。その他、コロナの影響で数名の方が自宅待機されたり、事業所より自宅待機のお願いをしたりした方があった。
- ・働くことを日課の中心とすることに無理を生じてきている方も見受けられる。各個人の意思を確認しながら生活介護等へ移行することも選択肢として考えていきたい。今年度については、当事業所を退所し老人保健の施設へ入られた方が1名おられた。

○活動（作業）の取り組みの状況

- ・センターの花の管理と掃除…ふれあい公社からの業務委託、随意契約

外周清掃	1,286,978 円
植栽管理	596,640 円
樽交換費	123,970 円

- ・出向作業（ペットボトルの回収） 232,000 円
- ・赤玉土の封入…雨の日の作業として有効であった。 2,640 円
- ・ペットフードの封入…昨年度より注文が増えた。 181,851 円
- ・段ボールの加工…昨年度と同程度の受注であった。 53,351 円
- ・箸入れ…需要が減った為前年の半分であった。 15,398 円
- ・クッキーの生産…バザーもなく売り上げが落ちた 907,378 円
- ・ドコモエコバック…今年度より注文を受けている。 158,000 円
- ・古紙リサイクル 3,500 円
- ・タスクル 13,660 円
- ・セルフファイル 20,250 円

昨年度に引き続きコロナウイルス感染症の影響により売り上げは減ったが、ご利用者の人数が減ったため一人当たりの売り上げは昨年度と同程度となっている。

※昨年度との売り上げの比較

令和2年度 売上総額 3,793,499 円

令和3年度 売上総額 3,595,616 円 前年度比 94.7%

○活動について

- ・10月以降のコロナ感染者が減った際に、BBQ 外出を行い久しぶりに余暇での外出を楽しむことができた。
- ・年に4回程度外出や調理実習等の行事を行っているが、今年度はコロナウイルス感染予防のため中止した。

- ・希望者には講座（お茶・踊り）の受講の提供をしているが、今年度はコロナウイルス感染予防のため中止した。

### 3. 管理運営、支援体制の状況について

- ・人員配置は7.5：1の配置とした。
- ・2月4・5・7日については、職員にコロナ感染者が出たため休業とした。また、コロナの影響で数名の方が自主的に自宅待機されたり、事業所より自宅待機のお願いをしたりする等、日中の職員配置に影響があった。

### 4. 苦情及び事故等

苦情 0件

意見 3件

- ・送迎のチャイムを鳴らしたが出られない為、ご本人に家に入ってもらったことに対して、チャイムをきちんと鳴らして知らせたいとの意見  
⇒連絡帳にて謝罪し、終礼で周知した。
- ・送迎職員によって運転に違いがあり、しっかりと減速しない職員がいるとの意見。  
⇒送迎職員がご家族に謝罪し、終礼でも周知した。
- ・私的利用料の請求日が毎月違うので、金額を丁度用意ができない。寒い日が続いているのに外作業が多かったとの意見。  
⇒ご本人とご家族と相談して作業参加していただいた。

事故 重大事故（通院等に関わるケース）なし

ヒヤリハット 転倒-5 他害行為-1 所在不明-2

ミス2 盗食-1 誤飲・誤嚥-1 その他-1

〈事業所共通の取り組みについて〉

#### 1. 新型コロナウイルス感染予防対策について

- ・活動場所の定期的な換気、机や手すり等の消毒、送迎車内の換気及び消毒液の散布等を行った。カラオケのマイクや活動で手に触れる物品の消毒を行った。
- ・職員、ご利用者ともに検温、マスクの着用（ご利用者はできる方のみ）、手指の消毒を随時行った。
- ・外来者、ご家庭においては発熱や咳等の確認を行い、来訪者名簿に記入し、手指の消毒を行った後に活動エリアへ入っていただいた。
- ・発熱があったご利用者、職員について解熱後48時間経過した後通所、出勤していただいた。
- ・ご家族、ご本人、職員ともに感染発生が続いている地域への外出自粛を要請した。やむを得ず外出のあった場合は自宅に帰ってから2週間程度の自宅待機をしていただいた。コ



コロナ感染者の減少により11月より2週間の待機期間をなくした。年明けより感染者が増えてからは状況により待機をお願いした。

- ・ご家族、ご本人、職員共に感染発生が続いている地域から帰られて2週間が経過しない方と濃厚接触された方は2週間程度の自宅待機をしていただいた。コロナ感染者の減少により11月より2週間の待機期間をなくした。年明けより感染者が増えてからは状況により待機をお願いした。
- ・食堂の机にパーテーションを設け食事場面での感染対策を行った。食事支援、歯磨き支援等のご利用者と接触を伴うような場合には、マスクを2重にしてフェイスシールドを着用し支援した。
- ・コロナ感染が疑われる際または職員が濃厚接触者等になった場合に感染の目安の1つとして簡易な抗原検査キットを使用した。

## 2. 年間行事について

年間行事については前年度と同様に障害者スポーツ大会、招待ボウリング、ふれあいまつり等の行事を実施・参加する予定であったが、コロナ禍で中止となっている。

## 3. 土曜開所・祝日開所について

福祉サービス支給量の原則日数を開所日として設定した。

土曜日と一部の祝日を開所日として設定した。土曜開所は、ボウリングやカラオケ、おやつ作り、散策、レクリエーション等、利用者のニーズに応じてサービス提供する予定であったが、コロナウイルス感染予防のため、ボウリング、おやつ作りは中止し、カラオケについては、YouTubeでマイクを使用せずに音楽に合わせて楽器を鳴らす等に変更して行った。

## 4. 工賃の支給について

ワークプラザ（就労B）は、作業に参加したか否かを基準に支給した。コロナ禍であり収益は減ったが、ご利用者の人数も減ったため、工賃の支給は昨年度と同程度支給できた。フレンドリーハウス（生活介護）については手芸品、軽作業、ペットボトル等の収益が出た場合は、売り上げから経費を差し引いた金額を年2回に分けて配分しているが、コロナによりバザー等の収入がないため、額は少なくなったが支給はできた。

## 5. 給食提供について

例年どおり、魚宗フーズに業務委託し、サントピアからの給食提供を受けて配食した。健康状態、栄養状態や家庭からの要望等に対応して提供した。また、希望に応じて外部からの宅配や弁当を持参する人の保冷等の管理にも対応した。

9月27日から10月10日まで給食提供を受けているサントピアが休業したため、まるたま弁当にて対応した。

岡山ふれあいセンターの館内工事（9月22日から3月21日）が始まり、館内の通行が一部できなくなったため、食材運搬を保冷車で行った。

#### 6. 健康管理について

健康については特にご家庭との連携の中で細かい配慮を行った。看護師を中心に健康状態の把握に努めた。必要な方については、定期的に健康チェックを行い活動を提供した。毎月の体重管理は継続して行った。コロナ禍であり、家庭で毎朝、検温を行い、連絡帳に記入していただいた。また、フレンドリーハウス、ワークプラザ共にご利用者については、事業所でも定時に検温を行った。職員については出勤時に検温を行うようにした。

#### 7. 利用者の送迎について

情緒面や排泄面の関係から送迎バスから個別送迎に変更したご利用者が数名おられた。

送迎バスについて6月にワークネット岡山より日産シビリアン（日本財団）の譲渡を受けバスの入れ替えをした。送迎で長年利用していたアイシスが故障したため、1月にセレナを購入した。また、岡山ふれあいセンターの工事の期間中には、ワゴンRとデイセンターさくらの保冷車を交換してもらい、食材の運搬や送迎に利用した。

また5件の事故報告（送迎車のタイヤを溝に落とす、停車中にブレーキが足から離れ前の車に接触する、対向車とミラーを擦る、フェンスに車の後部が接触する、民家の軒先に後部を擦る）があった。通院を伴うものはなかった。都度、朝終礼時に注意喚起を行った。

3月11日にバスを車検に出した際に、ラジエーターの故障が見つかり修理のため3月末までバスが使用できず、レンタカーにて対応した。

#### 8. 地域交流について

ふれあいセンター内の事業所との交流行事、地区社協主催の敬老会等の交流行事については、コロナ禍で中止となっている。コロナ感染者が減った期間に地域のフラダンスのボランティア（アロハノア）とつながることができた。月に1回程度来ていただき、ご利用者の楽しい活動となっている。

#### 9. 安心、安全な体制づくり

サービス提供の基本は、まず前提に安心して安全に利用できることである。リスク管理の徹底をはかり、苦情・意見への迅速な対応に努めた。

ヒヤリハットについて、終礼にて対応策も含めて話し合いの場を設け、事故を未然に防ぐように努めた。（件数については、各事業所の項目に上げている。）今年度はヒヤリハットの学習会を行いリスク管理についても話し合いの場を持った。リスクに対しては緊張感をもった職場でありたい。

## 10. 苦情・解決

苦情・意見は真摯に受け止め、発生した事案については「すばやく」「かくさず」「誠意をもって」対応していくと共に十分に原因を探りその防止に努めていく。今年度については苦情はなかったが、意見が4件あった。(各事業所の項目に上げている。)

### 11. 非常災害対策計画

地震やそれから派生する水害等に対しての非難の想定及び対策を昨年度「事業継続計画」としてマニュアル化したものを利用している。現在80名分の非常食の備蓄を行っている。来年度より備蓄の期限が来るものがあるため、入れ替えを行っていく。

### 12. 防犯対策について

不審者の侵入等から利用者の安全を保障するために外部からの見知らぬ方については、積極的にお声掛けをした。声をかけて相手の反応を見ることで判断し防犯に努めている。

### 13. 自己研鑽の強化と従業員の資質の向上

職員の意識改革、スキルアップの為に職員の経験に応じて強度行動障害研修、サビ管研修、更新研修、初級者研修等に参加した。事業所内研修について、ヒヤリハットの学習会や虐待予防学習会を行った。

## 令和3年度【泉学園共同生活援助事業所】事業報告

### 1. はじめに

5月に帰省中の利用者が食事中の事故により急逝されるという悲しい出来事があった。あまりに突然の出来事に強い衝撃を受けることとなった。同時にこういったことがグループホーム内でも起こり得ることとして、常日頃から利用者の様子をしっかりと注視しておくことの重要性を改めて教えられることとなった。

また、12月には高齢の利用者がホーム内で脳梗塞で倒れ、救急搬送されることがあった。身体に重度の麻痺が残ることになり現状のホームの生活に戻ることは困難であると判断し、リハビリ入院後は介護保険施設への移行を目指すこととなった。利用者の身体状況等に大きな変化があった際には受け止めきれないグループホームの現状には歯がゆさも感じるようになった。

12月からこれまでになかった支援体制（朝夕の世話人配置と夜間宿直体制）のグループホームを新設し、男性5名が既存のアパート型グループホームから異動して生活を始めることとなった。これまでのアパート型のホームでは行き届かなかった部分への支援が可能となり、利用者にとっても安心を得られるものになったと感じている。

一方で、支援体制の薄いアパート型のホームには空室ができてはなかなか入居希望者が見つからない現状があり、今後はこれまで以上に地域のニーズを反映した事業展開を考えていく必要があると感じている。

### 2. ホームの定員・現員について

- |                 |                 |
|-----------------|-----------------|
| ①グループホームビーネン    | : 定員 4名 (現員 3名) |
| ②グループホームニュービーネン | : 定員 4名 (現員 4名) |
| ③グループホーム菜の花     | : 定員 4名 (現員 4名) |
| ④グループホームはちみつ    | : 定員 2名 (現員 2名) |
| ⑤グループホーム福富Ⅰ     | : 定員 3名 (現員 2名) |
| ⑥グループホーム福富Ⅱ     | : 定員 3名 (現員 2名) |
| ⑦グループホーム泉       | : 定員 3名 (現員 3名) |
| ⑧グループホームみのり     | : 定員 2名 (現員 2名) |
| ⑨グループホームゆたか     | : 定員 7名 (現員 7名) |
| ⑩グループホームひばり     | : 定員 7名 (現員 7名) |
| ⑪グループホームこかげ     | : 定員 7名 (現員 6名) |
| ⑫グループホームつぼみ     | : 定員 7名 (現員 7名) |
| ⑬グループホームはまの     | : 定員 5名 (現員 5名) |
| ⑭サテライトふくとみ      | : 定員 1名 (現員 1名) |

定員 59名 (現員 55名 ; 3月31日現在)

### 3. 利用者の状況及び活動状況

- ・年間利用率…85.9%
- ・5月に男性利用者が死去により退所、8月末で女性利用者が他法人のグループホーム

ムへ転居のため退所、9月末で女性利用者が長期入院により退所、10月末で男性利用者が自己都合により退所、1月末で男性利用者が急病により退所（長期入院後に介護保険施設利用予定）。

- ・新規入所者…7月に男性（在宅生活から）、9月に男性（精神科病院から）、1月に女性（在宅生活から）。
- ・コロナ禍が続くなか、ショートステイ利用者が利用直後に陽性になったり、ショートステイ利用者の家族が陽性になったことで、ショートステイ併設のグループホーム利用者や直接関わった支援者がPCR検査を受けることになったり、それに伴い通所を欠席してもらわなければいけなくなったりすることがあった。年度中にグループホーム利用者から陽性者が出ることはなかったが、感染拡大に伴い新型コロナに振り回されることは度々あり、神経を擦り減らす日々が続くこととなった。各利用者にも外出を制限していただくことも多くあり、昨年度に引き続き多くの場面で我慢を強いられる一年になった。
- ・避難訓練： 6月、2月に火災による避難訓練を実施。  
11月に地震、津波による避難訓練を実施。

#### 4. 支援体制及び運営状況

管理者 1 名（サビ管と兼務）

サービス管理責任者 3 名（管理者、生活支援員兼務）

※常勤換算 2.0；基準上の必要数 2.0

生活支援員 15 名（サビ管兼務含めず、世話人兼務含む）

※常勤換算 11.6；基準上の必要数 8.9

世話人 28 名（生活支援員兼務含めず）

※常勤換算 14.0；基準上の必要数 13.0

看護師 2 名（非常勤）、夜間支援員 7 名、事務員 2 名（1 名は世話人兼務）。

- ・女性生活支援員 1 名が 10 月よりパンフルートとの兼務からグループホームの専従に変更。
- ・今年度はそれぞれの事情により退所される方が多い 1 年となった（退所者 5 名）。また、最近のこの地域の情勢として企業によるグループホーム事業の参入が目立ち、多くが夜間支援のあるグループホームが展開され始めた。そのためか当事業所が運営する夜間支援のないアパート型のグループホームへのニーズが以前ほどは聞かれなくなり、空き室に新たな利用者を迎えることが難しくなっているように思われる。そういった影響もあり、年間を通しての稼働率も下がり、運営状況も厳しいものであった。夜間支援のあるグループホームはこれまで同様にニーズはかなり高く、空き室ができてはすぐに次の利用者を迎えることができている。今後の事業展開はこれまで通りでは通用しなくなってきたことを実感している。

#### 5. 職員研修について

事業所内での研修は支援者全体が集まる機会を確保することが難しく、なかなか思うように取り組めなかった。一方でオンラインによる外部研修は支援者間で情報共有

することで希望者が積極的に受けることはできていた。外部の集合研修はいまだコロナ禍で参加しづらい状況は続いたが、昨年度よりは工夫しながら集合研修を開催できるようにはなっている。会場の熱気のようなものを感じながら学べる集合研修はやはりオンライン研修では味わえない有意義さがあるように思われる。新型コロナが早く収束し、安心して集合研修に参加できる日々が来ることを願うばかりである。

## 6. 苦情、事故、ヒヤリハット

<苦情>

1件（ホーム内から外に向かって大声を出す）←地域からの苦情

<ヒヤリハット>

39件（内訳：服薬関連…6件、他害行為…5件、危険行為…9件、転倒…5件、連絡ミス…2件、怪我…1件、その他…11件）

<事故>

24件（内訳：器物損壊…7件、怪我…3件、服薬関連…3件、他害…3件、交通事故…2件、連絡ミス…2件、車検切れ…1件、その他…3件）

## 7. 短期入所について

引き続きのコロナ禍で、感染拡大時期には数件の利用のキャンセルはあったが、地域の重要な役割となる事業でもあるため、感染拡大時期も受け入れを止めることなく対応してきた。その中でショートステイ利用者が発端となって多くの利用者、支援者がPCR検査を受けることになった事例は発生したが、陽性者が出ることなく乗り切れたことは幸いであった。

また、緊急事例の受け入れも数件あったが、いざという時に空いていることは少なく、地域生活支援拠点の一端を担う事業所としては十分な役割を果たせないことがあった。

契約者数：64名（今年度新規契約者：6名）

## 8. 今後の課題

利用者の病気による退所があったり、長期入院となった利用者も複数あったりと、利用者の加齢に伴う健康不安は年々確実に多くなっているように感じられる。その中で、今までの支援体制では安心した生活が送れなくなってくる利用者も増えることが予測されるなか、12月に新設した「グループホームはまの」のように今までよりは支援体制を充実させたホームの展開も引き続き考えていく必要がある。

また、強度行動障害等により生きづらさを多く抱えてしまっている利用者への日常の支援にはさらなる専門的スキルが必要となっている。今後の展開を見据えた上で、一層のスキルアップを目指していくことが必須となっており、今一度研修のあり方も考えていきたい。

地域に目を向けると、介助者の健康不安による生活の危機や虐待事例等から緊急対応が迫られることが多くなっていることもあり、即座に対応できる機能の充実が求められる。支援者のスキルアップもさることながら、地域で困っている人から目を背けることなく、「なんとかしよう」という支援者としての意気込みを持ち続けていきたい。

## 令和3年度【岡山南障害者地域生活支援センター「パンフルート」】事業報告

### 1. はじめに

前年から引き続き新型コロナウイルスの影響は大きかった。特に行動援護・移動支援の外出支援は時間短縮やなるべく交通機関を利用せず、徒歩で人込みを避けての近隣への支援で対応をせざるを得ず利用者が必ずしも満足できるといえるような支援ができなかった。

居宅介護は日常生活を送るために必要不可欠な支援の為、支援時はマスクをさせていた。手洗い・消毒を徹底していくなどの感染対策を行ない支援は継続。居宅介護員が訪問することでコロナ禍の中で不安に思われている方もおられたが安心感に繋がっていた。

### 2. 職員の状況について

・常勤職員 4名(常勤換算 3.5名)、登録ヘルパー3名(常勤換算 0.7名)

7名体制(常勤換算 4.2名)で事業運営にあたる。

(常勤職員 1名グループホームと兼務からグループホーム専属となり 10月より 5名から 4名へ。1名はグループホーム兼務)

\*常勤1名 4月～7月(4か月間)体調不良にて休職、8月より復職。

### 3. 苦情、ヒヤリ・ハット、事故等について

・ヒヤリ・ハット・・・4件 ・ケア事故・・・5件 ・破損・・・1件 ・その他・・・4件 (計 14件)

(ヒヤリ・ハット)

- ・勤務間違い。午後からの出勤を公休と間違えていた。職員からの連絡で間違いに気付く。
- ・行動援護後、利用者の身体障害者手帳を返却し忘れていた。家族から連絡あり返却。
- ・行動援護時、利用者の財布を店舗のベンチに忘れてしまう。すぐに気付引き取りに行く。
- ・事務処理をしており居宅介護への出発時間に気付かなかった。間に合わない為、時間変更させていただく。

(ケア事故)

- ・行動援護時、歩行中に足を引っかけられ転倒し左膝擦り傷になってしまう。
- ・行動援護時、バスに乗り込む際に段差を踏み外し尻もちをついてしまう。
- ・入浴介助時、左前腕部が蛇口のお湯部分に触れてしまう。
- ・行動援護時、歩行中にバランスを崩され右膝からゆっくり転倒してしまう。
- ・家事援助時、精神障害の利用者へ過度な声かけ・言葉の選択を間違えて本人を不調にさせてしまう。

(※すべて市町村への報告まで至らない事故)

(破損)

- ・利用者の確認印(100均シャチハタタイプ)に朱肉をつけてしまう。拭き取るも上手く押印できなくなる。

(その他)

- ・事務所前に自家用車を駐車しようとして社用車をぶつけてしまう。

- ・自己負担がある利用者との行き違いがあり、説明するも障害特性から理解が難しく納得されず。請求できない為、事務所負担となる。
- ・交通渋滞で支援時間に遅れてしまう。
- ・家事援助後、掃除機のコードを片付け忘れており連絡せず訪問してしまい混乱させてしまう。

\* 苦情はなし

#### 4. 経営状況

居宅介護事業(家事援助・身体介護・行動援護)については、新型コロナでのまん延防止等重点措置などの影響で収益率の高い行動援護の支援時間が減少したことが収益にかなり影響した。

地域支援事業(移動支援)についても新型コロナウイルスの影響が大きく支援時間が減少したことで収益に影響した。

収益面は依然事業所単独での経営は難しく、繰入を仰がなければならない状況である。

#### 5. サービス利用状況について

各サービスの利用状況については以下の通り

##### (1) 居宅介護事業

(家事援助・身体介護・通院介助・通院等乗降介助・重度訪問介護・行動援護)

稼働契約者数	支援時間合計	苦情件数	事故件数
32 名	3,229.5 時間	0 件	5 件

\* 昨年度支援時間 3482.75 時間

・利用者数前年 33 名。新型

コロナ感染防止対策で行動援護の支援時間を短縮、重症心身障害の方への身体介護の支援が感染防止でキャンセルの為、支援時間が減少した。

・新規依頼の傾向として精神障害の家事援助依頼が多い。

##### (2) 移動支援事業

稼働契約者数	支援時間合計	苦情件数	事故件数
23 名	1090.5 時間	0 件	0 件

\* 昨年度支援時間 1,280 時間

・利用者数前年 29 名。

・昨年から引き続き新型コロナ感染防止対策で支援時間を短縮したため支援時間が減少した。



### (3)いきいきいずみサービス事業

延べ利用者数	支援時間合計	苦情件数	事故件数
0名	0時間	0件	0件

\*昨年度支援時間 0時間

- ・利用者数前年 0名。
- ・福祉サービスが利用出来ない場合にいきいきいずみサービスで対応予定だったが福祉サービスで対応できた。

### (4)福祉有償運送

稼働契約者数	利用件数	総走行距離	苦情件数	事故件数
17名	482件	5,247km	0件	0件

\*昨年度利用件数 422件 昨年度走行距離 4,497km 登録者数 28名

- ・新型コロナウイルス感染防止対策として希望される利用者は交通機関の代わりに福祉有償運送を利用したため利用件数が増えた。
- ・高齢化で歩行状態が悪く交通機関が利用できない利用者を福祉有償利用にて対応。
- ・福祉有償運送の新規依頼はほぼ毎月数件あり。依頼時間帯・人員不足の関係で希望通りは受けられない状況である。
- ・登録者数は前年 77名から利用されていない方などの見直しを行い令和 3年 12月より 28名とする。

## 6. 今後の課題

本年度も新型コロナウイルスの影響で行動援護・移動支援(外出支援)の支援時間を感染防止対策で支援内容を変更し、短時間支援に変更している。今後もコロナ感染防止対策を継続しながら支援内容を考慮していかなければならない。

居宅介護・移動支援ともにヘルパー支援を求められている方は多いが、ヘルパー不足の状況は続いており十分な対応が出来ていないのが現状である。地域での生活を希望されている方の多様なニーズに応じていくため、又、収益改善を図るためにヘルパーの人員確保・質の向上は必須課題である。

## 令和3年度【岡山南障がい者相談支援センター】事業報告

### 1. (はじめに)

今年度より岡山市障害者基幹相談支援センターが設置されたことにより市域の相談支援体制の3層構造化が成され、各層に職員を配置する当事業所は、それぞれの役割を強く意識して業務にあたる1年となった。

計画相談支援、障害児相談支援は、相談件数の増加により指定特定相談支援事業所としてお応えしきれず、委託相談支援事業所として他事業所へお繋ぎする対応となった。地域移行支援についてはコロナ禍において活動に制限がある中でも関係機関と連携して実施した。

一方、個別給付以外の一般的な相談に加え、専門的な相談支援の実施や障害者虐待防止に関する取り組み、事業所支援や研修の機会により地域の支援力向上の一助としての取り組みも自立支援協議会を通じながら実施した。地域生活支援拠点事業(24時間対応等)に関しては緊急で過ごし場所を要する案件の場所の確保に難航した事例もあり、体制整備は引き続き取り組んで地域のニーズに応じていきたい。

新型コロナウイルス感染予防の観点から、今年度も事業運営は国や県からの対応指針に基づいた対応となることも多かった。

### 2. (管理運営、相談支援体制の状況)

管理者	相談支援専門員	相談員	事務員	計(実人員)
1(兼)	5(専1、兼3、派遣1)	1	1(兼)	6

### 3. (実施の重点として)

#### ア) 計画相談支援・障害児相談支援

計画相談・障害児相談への依頼は随時受け止める中で、自立支援協議会を通じて地域の相談支援事業所へのつなぎで対応してきたが、それも受入れが難しくなっている。

#### イ) 岡山市相談支援事業機能強化事業

複合的な課題を有する事例への対応に関し、市の総合相談体制との連携を図ったり、事業所支援等による専門性を発揮できるように努めた。

#### ウ) 岡山市地域生活支援拠点事業

常時の相談受付体制、緊急時支援、人材育成(相談支援OJT)などに取り組んできた。また、地域づくりの一環として、地域の相談支援事業所やサービス提供事業所との連携や質の向上を意図した取り組みも行なった。

#### エ) 岡山市障害者基幹相談支援センター事業(新規)

センター長1名(専従)、専門職員1名(兼務)として派遣した。派遣先はひらた旭川荘内(北区平田407番地)。

### 4. (地域の支援に関する取り組み)

#### ○障害者自立支援協議会(県・市)

(岡山市) 運営に関する会議、各種専門部会やワーキンググループ、地区における事例検討会・課題整理、に参加した。

(岡山県) 専門部会(人材育成部会)に参加し、広域的な課題への取り組みを行った。

#### ○相談支援専門員の養成および育成

・岡山県実施の法定研修としての初任者研修・サビ児管研修(講義、演習)に協力した。

・市主催の計画相談支援に関する研修の企画運営等に協力した。

#### ○県立支援学校および医療機関等

・連携に係るネットワーク会議やケア会議に参加。

#### ○岡山県障害者相談支援アドバイザー事業

・県下市町村あるいは圏域への支援(地域自立支援協議会、支援体制整備に係る支援、支

援者の人材育成等)を実施。  
(職員の派遣)

内容	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
自立支援協議会関係	5	7	6	5	6	5	7	5	5	5	6	5
県アドバイザー事業		1		2	4	1				1		3
機関との会議等	1 2	1 3	1 0	1 1	1 0	9	1 0	9	1 0	1 0	1 2	9
各種研修会等				1	1	2	2	5	4	2	3	

#### 5. (職員の研修) \*法人内研修除く

開催月	派遣内容	主催	開催地	備考
毎月	市協議会地域部会事例検討会	市協議会地域部会	岡山市	
7月	岡山県サービス管理責任者更新研修	岡山県	岡山市	
8月	岡山県精神障害者地域対応力向上研修会	岡山県	オンライン	
9月	岡山市計画相談に関する研修会	岡山市	岡山市	
10月	障害児相談支援に関する研修会	岡山県	オンライン	
10月	精神障害者地域移行・地域定着に関する研修会	岡山県精神保健センター	オンライン	
11月	強度行動障害のある人の支援に関する研修会	市自立支援協議会	岡山市	
11月	成年後見制度に関する研修会	岡山市	岡山市	
11月 12月	岡山県強度行動障害支援者養成研修	岡山県	オンライン 対面	講義 演習
11月 12月	岡山県医療的ケア児等コーディネーター支援者養成研修	岡山県	オンライン 対面	講義 演習
12月	岡山県サービス管理責任者更新研修	岡山県	岡山市	
11~1月	相談支援専門員現任者研修	岡山県	岡山市	インターバル有
1月	岡山県障害者虐待防止・権利擁護研修	岡山県	オンライン	
1月	南西地域 サービス管理責任者合同研修会	市自立支援協議会	岡山市	
2月	介護支援専門員と相談支援専門員の合同研修会	各専門員協会	岡山市	

#### 6. (次年度に向けての課題や取り組み)

計画相談支援および障害児相談支援の対応については国が示すモニタリング標準期間が導入されたことで契約中の稼働率が高まり、従前から新規契約に至りにくい状況となっていたところに加え、基幹相談支援センターに職員を派遣したこと、相談支援機能強化事業の取り組みを強めたことから益々新規契約に至るのは難しい状況となった。現状からすると次年度も新規受け入れは難しくなる見通しとなっている。

地域生活支援拠点の枠組みである相談支援専門員の個別支援をテーマとしたOJT事業(岡山市)は4年目を迎え、今年度は3名の方を対応させていただいた。次年度も対応は継続する。

新型コロナウイルスの影響により、地域連携を意図した取り組みの見通しが掴めない状況が続いている。しかし、オンラインの整備を行ない、対面のみならずオンラインも活用し工夫しながら実施が行なえた。今後とも「地域力強化」、「我が事・丸ごと共生社会」の実現に向けた取り組みとして、当事者が地域の中で安心して自分らしく暮らしていくために「共生社会の中での役割」を意識しつつ地域の声を届ける等の取り組み、サービスの質向上や支援者支援なども含めて、地域内や行政はじめとする関係の機関との連携を密に取り組みしていきたいと考えている。

広域的な取り組みとしては、県内市町村・圏域からの相談支援体制に関する支援に対し岡山県庁を通じて取り組んできた。また、今年度より新カリキュラムとして実施される相談支援初任者研修並びに現任者研修、主任者研修に係る法定研修等への協力を行なった。

事業所の課題としては、事務所内のスペースが非常に手狭で、業務に支障が出てしまう状況が変わらずあり、周辺事業の動向や兼ね合いを見ながら対応策を検討していきたい。

## 令和3年度【障がい者デイセンターさくら】事業報告

令和3年度も新型コロナウイルス感染症の影響から作業や活動内容、行事について検討を余儀なくされる状況であった。介護等体験の実習生やボランティアの受け入れもできず、外部との交流も控えてきた。物足りなさを感じるものの、ご利用者や職員の家庭内で感染者が出る中で、事業所内にウイルスを持ち込んだり、拡大させたりすることなく過ごせたことは良かったと感じている。

ご利用者やご家族、職員全員の健康が今後も守れるよう引き続き対策をしっかりと取って運営にあたりたいと思う。

### 《生活介護事業》

令和3年度も新型コロナウイルス感染症が増減を繰り返すことで、行事や外出活動を控えざるを得ない状況であった。外出気分だけでも味わえるようリモート旅行を企画し、雰囲気を楽しめるような工夫をする等、これまでとは異なる動きに力を入れて取り組んだ。

また、季節行事を活動に取り入れ、準備を皆で行なって雰囲気を盛り上げるよう取り組んでいる。ご利用者それぞれの取り組みやその成果についての確認や報告をすることで、ご利用者の皆さんがお互いの活躍を知り、称賛する姿を大切に支援している。

#### 1、定員並びに利用状況

- 定員:10名(変更なし)      ○4月～3月平均利用率:103%
- 契約者数:15名(令和4年3月31日現在)
- 障害支援区分:平均5.6(区分6→11名、区分5→3人、区分3→1人)

#### 2、職員配置 変更なし(人員配置1.7:1)

- 正規職員1名 令和2年9月22日～令和3年7月26日育休
- 正規職員1名 令和3年4月8日入職      ○正規職員1名 令和3年5月1日入職

#### 3、主な支援内容

- 午前中は個のニーズに沿った活動を提供するための個別活動、午後は仲間とのふれあいを楽しんでいただくため、集団での活動を提供した。
- 個別活動(午前)  
ご利用者の意思確認や意思決定する場面が多くなるように支援した。個別支援計画の中の支援内容に該当する方が多く、比較的支援者側も意識しやすかったところも大きい。また、パート支援者を含めて各ご利用者の支援内容を把握、確認、検討することで統一した支援ができていた。
- 集団活動(午後):外出・レクリエーション・おやつ作り・創作他。  
活動内容を2種類用意し、ご利用者に選択していただくようにした。また、選択する際にも口頭での説明ではなく、画像を取り入れた選択形式とした。  
取り組み内容については、ご利用者間の交流に繋がるような動きとなるよう意識した。また、活動内容も偏らず、バランスよく提供できるよう活動の幅が広がることも

意識して支援した。

### 《就労継続支援B型》

今年度も新型コロナウイルス感染症の影響が継続した1年であった。しかし、下請け作業の題材の安定的な入荷、カフェつみ木による外部への弁当販売が売り上げを大きく伸ばしたことで何とか凌ぐことができた。ただ、人件費の削減を図ったことで、如何に現場内での動きを工夫していくかが問われるところもあり、今後の課題とも言える。

#### 1、定員並びに利用状況

○定員：30名           ○4月～3月平均利用率：88%

○契約者数：38名(令和4年3月31日現在)           \*新規契約3名

#### 2、職員配置    変更なし（人員配置6：1）

○正規職員1名 令和3年4月19日入職   ○正規職員1名 令和3年10月8日退職

○パート職員1名 令和4年3月31日退職

#### 3、主な作業内容

○スイーツ（食品加工） 収支差：+58,799円

→\*収入：2,698,764円（前年度より+273,414円）

\*支出：2,639,965円(原材料費1,111,036円、経費653,399円、工賃875,530円)

元気の輪、岡山県セルフセンター、倉敷中央病院、積善会とは変わりなく取引きることができている。赤磐市役所との関係を持つことができたことで、焼き菓子の個別注文や販売の場を持つことができた。

○くらふと（製品加工・手芸） 収支差：+368,985円

→\*収入：1,629,361円（前年度より89,922円増）

\*支出：1,260,376円（原材料費140,967円、経費41,794円、工賃1,077,615円）

コロナの関係で施設外就労の機会はなかったが、下請け作業の題材は安定的に入荷し、売り上げ増に繋がった。特にドッグフードの下請け作業が軌道に乗り、ある程度の目安も立てやすくなったことから主軸の作業として捉えられるようになった。

もち麦の販売については、少しずつ販路を拡大している状況。今後の売り上げ増を期待している。

○カフェつみ木 収支差：-162,295円

→\*収入：10,379,308円（前年度より639,725円増）

\*支出：10,541,603円（原材料費4,271,773円、経費1,011,093円、工賃1,343,640円、職員人件費3,915,097円）

人件費を抑える形で取り組み、支出を削減した。コロナの影響から店舗への客足が伸びず、苦戦したが、きらめきプラザでの弁当販売を継続して受けるようにしたことで売り上げを確保することができている。また、来館者減の中でふれあい

公社内の職員向けの販売に力を入れ、リピーターを増やすことに取り組むことで売り上げ減に歯止めをかけることができている。

#### 4、利用者工賃

○月平均：7,449円(前年度6,778円)。時給平均：107円(前年度94円)。

つみ木は一律120円、(一部の方に勤勉手当30円、技能手当20円)くらふとは一律60円(一部の方にリーダー手当を支給)、スイーツは一律110円(一部の方に勤勉手当20円・リーダー手当20円を支給)

#### 《多機能型事業所さくらとして》

○地域との交流

- ・地域美化活動→さくら周辺の空き缶やゴミ回収を実施。
- ・餅つきは中止。福浜公民館まつりへの参加も作品展示のみの参加となった。

○ボランティア受け入れ

- ・ボランティアの受け入れについては、新型コロナの関係で受け入れを見合わせていたが、年度途中に一時的に感染者の減少が見られた際、音楽ボランティアの受け入れを実施した。\*音楽ボランティア(1人)

○全体行事

○一日社会体験、もちつきについては、感染症の影響を考慮し、中止した。

○忘年会は、就労継続はつみ木の店舗を貸切とし、3回に分けて実施。

\*生活介護・就労継続の利用者同士のふれあいを意識しながら計画している。

○土曜開所

- ・就労継続→月によって回数のバラつきがあるが、月1～5回実施。平均20名利用。
- ・生活介護→月によって回数のバラつきがあるが、月1～5回実施。毎回同じメンバーが10名程利用された。

○健康管理：\*生活介護に1名看護師を配属している。

- ・10月に定期健康診断(希望者)を実施。生活→6名 継続→21名
- ・11月にインフルエンザ予防接種(希望者)を実施した。(32名)

○給食サービス：\*給食会議を1回実施。\*今年度の嗜好調査は1回行なった。

○(株)メフォスに委託して給食の提供をお願いしている。調理員2～3名で対応。

○送迎サービス：\*生活介護→14人 就労継続→17人

\*ご利用者・ご家族の希望に沿って時間差送迎の対応を実施。

○ヒヤリ・ハット：(5件)転倒、尻もち、服薬忘れ。

○事故(21件)：転倒、尻もち、所在不明等が目立った。

○事故発生(6件)：ドアミラー接触、交通事故、ブラインド、トイレタンク蓋破損等

## 令和3年度 【デイセンターなすな】事業報告

令和3年度は、新しい利用者の方を迎えること無く厳しい予測の中スタートしたが、年度途中の利用者減もあり運営面では非常に厳しい1年間となった。一方、新型コロナウイルス感染症が次第に身近で発症する頻度が上がり休まれる方も多くなり、1月には利用者ご家族の陽性で2日間の休所を余儀なくされた。また、ワクチン接種（及び副反応）による休みや、他の事業所の感染予防策として利用事業所を一本化する動き（2か月間）もあるなど、利用率向上には難しい年であった。現在も基本的な感染対策は緩めることなく、事業所内への立ち入りも制限を継続したままである。年度末頃には、県外への往来について、様々な情報を元に、個々の感染対策の状況等を聞き取りしながら、自粛期間も短縮してはいる。しかしながら長期に亘る、多方面における行動制限や自粛等が、利用者の方はじめ職員それぞれに及ぼす精神的影響については計り知れず、どのような形で表に出てくるかと危惧してはいる。

今できること、今すべきこと、を地道にやっつけていこう。

### 1. 事業内容及び利用者状況等（年度末現在）

- ・生活介護事業、定員 25 名（契約者数 50 名。赤磐の土曜開所開始に伴い、1 年以上利用の無い方については契約者数に入れず。）
- ・利用者 3 名減（4 月 1 名逝去、10 月と 2 月に各 1 名入所）
- ・どの曜日も定員を満たしていないものの、多い日で 23 名の曜日あり、横になるスペースの問題が出てきている。
- ・支援区分については全員が区分 6 である。

### 2. 職員配置（1.7 : 1 以上）

管理者兼サービス管理責任者（常勤 1 名）、サービス管理副責任者（常勤 1 名）

生活支援員 9 名（常勤 8 名、非常勤 1 名）、看護師（常勤 2 名）、作業療法士（非常勤 2 名）

事務職員（非常勤 1 名）、送迎職員（非常勤 1 名）、家政員（非常勤 1 名）、嘱託医（非常勤 1 名）

- ・年度途中に支援員 1 名、体調不良もあり異動した為、1 名補充（非常勤）した。また、12 月末での退職者 1 名。非常勤看護師、送迎職員を引き続き求人中である。

### 3. 支援体制として

#### 【健康管理・医療面に関して】

利用者の方をはじめご家族の来所前の検温をお願いしている。日中も最低 2 回の検温を継続し、体調によっては回数を増やしてこまめな健康観察を行うようにした。また、ご家族との情報交換や引継ぎの他、利用者の方の状態によってはこまめなやりとりに努め、少しでも感染不安がある場合は、別室対応とした。ワクチン接種の広がりもあつたが、感染状況の変化に伴い、利用者の方のマスク着用を多くの方をお願いした。利用者ご家族や職員家族が感染し、年度末には利用者ご本人が感染されることもあつたが重症化はせず、拡大すること無く済んだことは不幸中の幸いと捉えたい。コロナに翻弄されることの多い 1 年間であつたが、誰もが元気に新年度を迎えることができおり感謝。コロナに限らず、今後、感染予防対策等の各マニュアルを整理して実質的なものとして備えると共に、引き続き基本的な感染予防策を徹底していき

い。

#### 【日中生活・日中活動】

- ・様々な社会参加の機会が制限される生活が続いている中、日中活動を充実させ、楽しんでいただきこうとする取り組みが見られている。普段の活動はもちろんであるが、旅行や買い物ができない状況を踏まえ、“旅行気分”を味わっていただけるような取り組み（ディズニーランドやハワイなど）も行い、楽しんでいただくことができた。
- ・利用される方や特性、嗜好等も個々である為、日によって、曜日によって昼食に要する時間はまちまちである。しかしその傾向も多少ながら改善できてきているように思われる。また、午後のゆったりとした活動やストレッチ、個別活動への取り組み等も自然な流れとなってきた。個々の状態や全体の流れ等を掴み、利用者の方一人一人に負担がかからないように、という配慮が声かけや協力を繋がってきているのでは、と考えるがしばらく様子を見ていきたい。
- ・コロナ感染が一旦落ち着きを見せた年末頃、吉岡先生がギターコンサートを開いて下さった以外は今年もどのボランティア、どの実習生にもおいでいただくことができなかった。多くの方々と接する機会やふれあうことができず残念であった。

#### 【入浴】

- ・年度途中より契約終了で1名減（32名）となったままである。基本的には空きがあれば他の方に入っていただくことにしているが、コロナの関係もあり、また冬場は体調も考え、要望が無い限りはお応えしていない。
- ・開所より9年が経ち、特殊浴槽のみならず、様々な機械器具、物品に不具合が出てきている。価格を吟味しながら、急ぎのものから少しずつ修理、交換を図る。

#### 【送迎】

- ・年度初めに軽四のスロープ車1台を新たにリースし、スロープ車3台、リフト車5台で送迎にあたっている。個々の自宅の場所や車椅子の構造上、使用が難しい機種もあるので臨機応変に使用し、毎朝夕で延べ約100名の方を送迎している。
- ・安全運転は当然のことであるが、尚且つ利用者の方に安心して乗っていただけるよう心掛けている。

#### 【土曜開所及び祝日開所】

- ・土曜開所については、なずな赤磐の土曜開所開始に伴い、赤磐の方の利用が減り、数名の方に固定しつつある。コロナ感染により1日休所としたこともあって年間20日間の開所となり、延べ268名の方に利用いただいた。（平均13.4名/日）
- ・今年度も7日間の祝日を開所とした。多くの方のご利用があり定着してきていると感じる。5月は給食の提供が無かった為、お弁当を持参いただいたり、コロナ禍ではあったが少人数で思い思いの昼食を求めて来られたりして堪能されている。

#### 【地域交流・地域防災・地域貢献】

- ・コロナ禍は続いており、祭りを始め様々な地域行事や町内の催しはほとんど中止となったが、



今年度も春と秋の溝掃除は実施され、新しい地域住民の方の紹介や災害時の避難先について伝えられるなど、回覧板と共に地域の生の情報が得られて良い機会となった。引き続き積極的に参加していきたい。

- ・パン販売や移動図書館等、コロナに影響されることは多々あったものの、楽しみに来て下さる方もあり、継続が大事であるということを改めて実感している。
- ・年2回の火災避難訓練に加え、大学の先生をお呼びしてこの地域の水害についての研修を行ったり、避難訓練を実施した。実際に生きるマニュアル作成といち早い判断と連携、動きを伴った訓練の必要性を痛感している。

#### 【行事】

- ・年間の行事計画もコロナ禍を見据え、所内でも行事としてしっかり楽しんでいただけるよう、中身に工夫が見られている。コロナの流行により、なずなまつりは2回目のご家族との懇親会とし、1月の新成人を祝う会は延期とした。どの行事も外部の方やご家族の参加をお断りせざるを得ない状況の中であったが、利用者の方一人ひとりには楽しく過ごしていただけたのではないかと思う。

## 令和3年度【デイセンターなずな赤磐】事業報告

はじめに

重度の障がいがある方々、そのご家族、また、長くなずなでご本人の支援に関わってきたスタッフ、関係者、そして赤磐市及び地元の方々のご協力を得て新たにここ町荊田での事業がスタートした。重症心身障がいという重い障がいがある方々が今、そして将来にわたる生き甲斐ある人生づくりに向け、新たなステージに立てたことにまず感謝をしたい。

一年が経過した。新型コロナ感染が収まらない中、日々の取り組みも、地域や社会との繋がりも、当初、願っていたより多くの制約を受け、不十分な1年となり、残念な思いもする。

2年目を迎えた今、感染対策には十分留意する中で個別のニーズに応える取り組みを始め、人との繋がりを重視した活発な活動や取り組みを進めていきたいと考えている。

### 1. 今年度事業の状況と実績

- ・事業名～生活介護事業デイセンターなずな赤磐
- ・定員～20名
- ・開所当初契約者数 37人（ほぼなずな瀬戸の方は継続）今年度末～現在 40人（新規契約者4人、契約解除者1人）
- ・今年度開所日数 259日（土曜開所、祝日開所等実施）、総延べ利用者数 4689人  
平均 18.1人/日  
コロナによる休所、1月24日（月）～28日（金）、2月21日（月）～22日（火）
- ・現在の区分別利用者数

区分	3	4	5	6	計
人数	1名	1名	2名	36名	40名

市町村別利用者数

市町村名	岡山市	赤磐市	瀬戸内市	備前市	計
人数	23名	11名	5名	1名	40名

### 2. 職員の配置

年度当初はデイセンターなずな赤磐（生活介護）いちばんぼし（児童発達。放課後等デイ）輪家（短期入所）を、のどか（相談支援）を除く同一管理者でスタート、5月8日より前任者に代わる管理者変更届を提出、4事業を一体として同一管理者で運営し一年が経過。

年度当初には中途退職者や病休者等あったが、秋以降はスタッフの配置も落ち着いたものとなっている。

### 3. 主な支援の状況

#### 1) 健康管理、医療面について

新型コロナ感染の影響を少なからず受けた。感染対策に当たってはご家族にも協力を願い、健康チェックや感染が疑われる際には迅速な対応に心がけてきた。残念ながら

二度にわたる休所を余儀なくされた。

利用者、ご家族の方々には急な閉所や開所、検査等をお願いすることとなり、ご迷惑をおかけした。他事業所を利用されている方も多数おられる中で、情報の連携等にもかなり労力を要した。当然、経営的な面の減収ともなった。

## 2) 日中活動

コロナ禍の中で活動の制約も当然ながら生じた。ボランティアの受入れや外出、外部との交わりのある取り組みは、ほぼ実施できずに終わった。

障害の態様、特性等に基づくグループに分けての支援に初めて取り組み、新たななずなの一ページとなった。他の多くの支援において全体での関わりが求められる中、グループ別の支援との調整や利用者理解の共有の面で課題も残った。

瀬戸時代と違い、庭先や散歩道で季節の空や風を感じながら過ごす時間もあり、地域の空気を楽しめることの有難さを痛感している。

## 3) 行事

前期のミニ運動会や夏祭り、ハロウィン等に加え、後期はクリスマス会や新成人を祝う会、スタッフの送別会など一部、外部の方にもおいでいただき、楽しい行事となった。その中で利用者の方々が見せて下さった笑顔や涙に深い感動を覚えた。

## 4) 送迎、入浴支援

送迎については極力ニーズを受け止めるべく努めてきた。この一年、毎朝夕 10 名あまりの支援に当たっている。車両の台数、送迎にあたるスタッフも瀬戸当時よりは増えている。ガソリンの高騰、他業務との調整等送迎に際しては多くの労力が求められるなずな故の課題を痛感する。

入浴については、ご家族の年齢に伴いそのニーズは年々高くなってきているが、ニーズに十分添えるものとはなっていない。延べ週 25 人ほどの方の支援となっている。祝日開所日は通常通り入浴支援を実施し、土曜日は見送っている。

## 4. 防災、リスク管理

### ◇防災について

夏場の雨が続いた際、中庭の排水路に課題が見つかり追加工事を実施。先日も通路やいちばんぼし玄関などに雨が吹き込む事態も見られたため、改修の必要を感じている。

福祉避難所としての検討や地域の防災対策関係者との共同した取り組みは新たな年度の課題として残っている。

### ◇事故、ヒヤリハット

年度当初、送迎時での事故が続き、利用者や関係者にご迷惑をおかけすることとなった。後期は軽微な損傷事故はあったがそれに留まり、安定した運行状況となっている。その後は通院等を要する怪我や事故等は生じていない。

写真の掲載や足の炎症などで苦情をいただくことがあった。個人情報への扱い、原因の精査などが課題として残った。この一年も転倒や打ち身、送迎忘れ等ヒヤリハットが幾

度か上がっている。

#### 5. 地域、ボランティアとの関り

コロナ禍にあって地域と繋がる活動やそれに向けての動きはほぼできずに終わっている。月一回の赤磐図書館前での農業マルシェにネイチャーファームのパンとさくらの焼き菓子をもって参加してきた。後半は新型コロナ感染が収まらない中、中断となっている。

12月には地域の方に来ていただき、交流や地域への貢献等、話し合いを持ち、今後に繋げた。

ボランティアの方の受入れは控えてきたが、後期になって従来から着ていただいている吉岡先生や藤原さんに音楽での楽しい時間をいただく機会を持つことができた。新年度から新たに地元の婦人会の方に毎月数名ずつ寄り添いボランティアできいただくこととなった。

### 令和3年度【児童発達支援・放課後等デイサービスいちばんぼし】事業報告

#### 1. 今年度事業の状況と実績

- ・定員 重心特化型定員5名
- ・契約者 12名～児童発達支援 3名（内、重症心身児2名）  
放課後等デイサービス 9名（内、重症心身児6名）  
※医療的ケア児 6名
- ・利用状況等 開所日数 251日（月平均21日）コロナ関係で8月に3日間、1月に9日間休所。  
利用者数 児童発達 252人/年（1日平均約1名）  
放課後等デイ 634人/年（1日平均2.5人） 利用率約70%

#### 2. 療育的な活動、日課等

初めての療育的な活動に勉強不足等もあり模索の一年であった。そうした中ではあったが、利用いただいている子供たちやご家族の姿を見ていて、安心して楽しく通っていただいている様子を感じ、和みをいただいている。

医療的なニーズを抱える児童が多く、そのリスクも高いものを感じているが、大きな事故も苦情もなく過ごせほっとしている。

#### 3. 管理運営、支援体制

開所当初から保育士、児童指導員の確保に苦慮してきた一年であった。看護師もお願いしていたパートスタッフが中途退職となり、常勤兼務1名とパート勤務2名で医療的なケアに当たってきているが、つなぎ繋ぎのケアで安定しないものがある。

児童指導員が資格要件の厳しさと事業所が増えてきていること、有資格者の減少等

が重なり応募者がいない。次年度にはぜひ安定した質の高いスタッフの確保をと思っている。

4. 苦情及び事故

苦情0件、ヒヤリハット4件（他傷、医療的ケア）

事故5件（外傷、転倒、その他）

5. 今後に向けて

指定基準はみたしているものの男性の児童指導員の配置、常勤看護師の配属など望ましい状況には至っていない。

玄関先に雨対策が求められるところがあり次年度の課題である。

### 令和3年度【短期入所事業 輪家】事業報告

1. 利用者の状況

・定員 2名 ・契約者 45名

・月別利用日数

4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
8日	4日	10日	12日	16日	20日	20日	24日	12日	12日	12日	18日	168日

※延べ日数 168 日/年

・短期入所利用者→知的障害、重症心身障がい者（医療的ケア含む）。※新年度になって、児童の利用が始まる。主には体験とレスパイト。ご家族の入院等、緊急受け入れもあり。

2. 管理運営、支援体制

・短期入所の取り組みはなすな関連では初めてのことであり、支援に当たるスタッフ、利用の調整等に苦慮した一年であった。利用される人それぞれにより添った支援で喜んでいただいている方も多く、ご家族から暖かい感謝の声も多く、励みとなった。

徐々に利用を増やしていきたいと考えている。

・送迎は求めに応じて取り組んでいる。ご本人の希望をもとに厨房で調理を行い、食事提供を行うケースもあった。11月からは単独型加算を届け出て、収入増に繋がるよう努めてきた。

3. 今後の課題

この一年も緊急時の砦としての役割を幾度か果たしてきたが、主にはご家族のレスパイトや宿泊経験といった側面が強い。また、休日の事業受入や日数に限りがある初年度であった。今後は緊急時受け入れに対応する力を一層強めると共に、皆さんの生活を支える上では必須の不規則勤務に臨める支援者の層の厚身を整える必要がある。

## 令和3年度【相談支援事業所のどか】事業報告

はじめに

赤磐市に事業所を移し、のどかと名前も新たにここ町苅田の地でスタートを切って一年が経過した。前任者の退職に伴い、新たに相談支援専門員を迎え運営に当たってきた。

この一年の特徴として、発達障害がある児童の相談依頼の増加が顕著となっている。

赤磐市基幹相談支援事業所としての役割も改めて問われてきた一年であった。今後、地域的に果たすべく役割が一層深まっていくものと思われる。

### 1. 令和3年度相談支援事業所のどか運営体制

管理者（デイセンターなずな赤磐、いちばんぼし、輪家管理者兼務）

相談支援専門員3名（常勤、内2名が交代にて週3日赤磐基幹相談支援センターに出向）

事務員2名（他事業所兼務、常勤1名、パート1名）

### 2. 主な業務の振り返り

#### イ. 計画相談支援、障害児相談支援

新たにスタートするにあたり、瀬戸相談支援事業所で相談支援に当たってきたほぼ全員の方が継続となった。この一年、新たな契約者は児童16名、者17名、契約解除者は児童5名、者5名となっている。

サービス利用計画の作成、3か月、6か月ごとの定期的なモニタリング、サービス調整会議の開催（新型コロナ禍の中で制約有）、ご自宅訪問を始め事業所や医療機関等に足を運ぶといった動きも多く、書類的な整えに四苦八苦の現状が続いた。

#### ロ. 一般相談支援（地域移行、地域定着）

昨年末から、地域移行から引き続き定着支援へとお一方支援に当たっている。精神科入院生活から安定した在宅生活へ支援を整え関わりを継続している。

#### ハ. 赤磐市基幹相談支援事業受託

月、水、金の週3日赤磐市の社会福祉課に出向し、基幹相談支援センターとしての業務を担う。窓口対応はもとより、赤磐市自立支援協議会の運営、相談支援事業所連絡会の運営、相談支援専門員の研修、初任者研修の受入れなどに当たってきた。困難ケースへの対応等では行政と情報共有しつつその役割を果たしてきたものとする。

#### ニ. 赤磐市地域生活支援拠点受託

赤磐市から委託を受け、障がいのある方の安心ある地域生活に向け、常時の連絡体制の確保、緊急時の相談に当たるようになっている。この一年は数件の相談に留まっている。地域の支援体制を構築する中で今後その役割が重要となっていくものと思われる。のどかは短期入所事業が同一敷地内に併設されていることで迅速かつ有機的な役割が果たせるものを感じる。

#### ホ. 基本相談支援

福祉サービス利用の相談にとどまらず、今年度も、不安症状の訴えに対する支援や成年後見制度の利用、障害年金受給に向けた支援、進路選択での悩み相談等々、頻繁な電話対応等を含め、相談に追われる日々が続いた。

#### ヘ. 各種研修、会議への参加

赤磐市相談支援連絡協議会研修会、地区別懇談会、親なき後成年後見制度について、

計画相談オンライン研修、赤磐市民生児童委員協議会、こころのアート展&沢知恵コンサート、みんなのあったらいいな座談会、赤磐市権利擁護研修会、矯正施設勉強会、医療的コーディネーター研修会、強度行動障害支援者研修会、発達障害支援夜間連続講座、発達障害者就労支援担当者連絡会、東備地域フォローアップ研修会、障害児相談支援研修会オンライン講座等。

## 5. 令和3年度末での利用者状況

### イ. 計画相談、障害児相談支援契約者数

地域別	岡山							赤磐市	備前市	瀬戸内市	吉備中央町	合計
	東区	瀬戸支所	中区	南区	北区	御津建部	保険センター					
者	38	22	17	2	8	4	22	33	3	2	1	152
児	15	16	5	0	0	0	0	8	1	0	0	45

### ロ. 相談形態別人数（対象者数）

基本相談	障害児	特定相談	地域移行	地域定着
41	45	152	0	1

### ハ. 相談の障がい別人数

状況	身体	知的	精神	重心	身・知	身・精	発達	難病 (再掲)	身体・高次脳
計画(者)	11	66	19	18	20	4	8	3	5
計画(児)	1	12	0	5	0	0	27	3	0
基本相談	5	13	6	0	0	1	15	0	1

### ホ. 計画及びモニタリング別請求件数（4月～9月）

内訳	月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	合計
		者	モニタリング	17	17	9	12	6	14	8	10	4	12	17
計画	17		15	17	13	10	17	14	14	17	5	11	13	163
児	モニタリング	2	6	3	3	3	6	3	0	0	0	1	5	32
	計画	7	2	7	7	2	7	4	2	6	4	4	8	60

## 6. 相談業務後期に向けて

赤磐での事業も一年の中で地域的な認知を得てきた感がある。赤磐市内在住、特に子供さんの依頼が増えてきた。また、基幹相談支援センターの一員としての役割も問われている。地域生活拠点機能含め、スキルの醸成と繋がりを強める中で、今後もより一層、地域の安心ある環境づくりに貢献していきたいものと考えている。

## 令和3年度【ワークショップちどり】事業報告

今年度は、新規利用契約5名、再契約1名で計6名の方を新たに受け入れた。その結果、令和2年度利用率65.6%から令和3年度84.4%と大幅に改善出来た。直近の2ヶ月は95%を超えており、令和4年度はさらに高い利用率を期待している。

作業支援に於いて、新規のご利用者が6名増えたにも関わらず、目標工賃達成指導員を中心に目標に沿って取り組み、作業収入を大幅に増やすことが出来た為、平均16000円の工賃支給実績となった。15000円～20000円の(611単位)サービス費を維持することが出来た。

【利用率100%】

【平均工賃15000円から20000円以上】

上記を目標として取り組んだ結果、概ね達成できたのではないかと考えている。

地域と繋がることは社会福祉法人に求められていることだが、コロナ禍においても出来ることを模索され、実行(ゆうあい文化祭、きらぼしアート展、紙漉きワークショップ、バザーなど)された1年だった。そして、Iさん、Mさん姉妹、Fさん始め、他の福祉サービスとの連携強化が求められる1年でもあった。今後ちどりだけでは解決できないことが増える。福祉の専門家としてどう関わるか、支援スタッフの専門性を高める取り組みも継続して行いたい。

### 1、定員及び利用者状況

- ・定員：20名(変更なし)
- ・契約者数：22名      令和3年度平均利用率 84.4%      (前年度65.6%)

### 2、職員配置

- ・管理者・サビ管1名(兼務)      目標工賃達成指導員1名      生活支援員3名
- 生活支援員1名(パート)      事務員1名(パート)

### 3、作業及び活動の取組み

〈作業〉

#### ・紙製品

コロナ禍でバザー開催が回復しない中、既存のお客様からの注文が好調だったこともあり売上を維持出来た。

今年度はご利用者全員に紙漉きに挑戦していただく機会を提供した。楽しそうに紙漉きをされていたので、今後も同様の機会を提供していきたいと考えている。

お花付けにも挑戦していただき、その中から1名の方がメインで関われる体制が整った。花はがき、花名刺の人气が少しずつ拡がっており受注が増えているが、お客様を待たせることなく納入出来るように努めている。生産体制を強化させたい。

#### ・受託作業(ドックフード等)

新たに利用開始された方が複数名おられ、これまで同様の作業提供と工賃支給を考え、作業量確保が課題となった。取引先にもご理解いただき、優先的に作業を回していただいた。取引先との信頼関係も良好で、順調に作業をいただけている。

#### ・施設外就労

大和運送、さりお配布、島村青果の3カ所で実施した。工賃向上のけん引役として優先的にスタッフ、ご利用者が関わった。参加される利用者数は変わらなかったが、技能習得の支援を強化したことで生産性が高まり、収入アップに繋がった。



大和運送の作業量低下が予想される場合、島村青果の作業量を増やす取り組みをした結果、作業収入を伸ばすことができた。

参加ご利用者の高齢化から、体力的なリスクを考え、安心安全に参加していただく支援を徹底した。継続して行いたい。

・委託販売、バザー

ネイチャーファームの花の販売で集客し、店内のディスプレイを工夫し、販売増に繋げる取り組みを行ったが、中々店内に入っていただく流れが作れなかった。今後さらに改善したい。

今年度もコロナ禍でバザー中止が相次ぎ、1万円/回程度の売上を失った。バザー開催を期待したい。

各作業の令和3年度収入状況について以下の通り（%は前年度比）

・紙製品作業	(収入 906,844 円)	102.0%		
・受託作業	(収入 1,417,595 円)	113.1%		
・施設外就労	(収入 2,155,053 円)	105.8%		
・委託販売	(収入 337,836 円)	104.5%		
・その他	(収入 82,581 円)	135.9%	合計 4,899,909 円	(108.1%)

利用者工賃：平均工賃支給額：15,960 円/月 時間給：197 円（総支給額 3,798,395 円）

〈活動・土曜日開所〉

- ・第3土曜日の開所日は担当者を中心にご利用者の意見を聞き、季節に合った行き先・ご利用者が多く参加出来る内容を検討し、社会体験の学びの行事となるよう実施した。

泊を伴う社会体験は、コロナ禍で2度延期したが、結局実施出来ていない。令和4年度へ延期している。

〈地域交流〉

コロナ禍で、防災訓練やクリスマス会などの行事で、近隣の老人施設との交流が今年度も実施に至らなかった。

福祉協会のゆうあい文化祭が今回、コロナ禍でリモート出演の企画となった。リモートであればと初めてちどりも参加し、毎年挑戦している手話歌を発表した。

4、リスク管理・苦情解決

〈ヒヤリハット・事故発生〉 2件 （公用車の物損2件）

〈苦情・意見〉 0件

終礼時、リスクにつながる事象を報告し、発展しない取組を徹底した。

5、今後の課題

- ・昨年度、6名のご利用者を新たに受け入れた。ほぼ定員に達しており、しばらく新規の受入れは一服する。現在利用されている方への支援をより充実出来るように、じっくり取り組みたいと考える。
- ・ご利用者が増える一方で、作業量確保、平均工賃支給額の維持が課題となっている。
- ・地域活動を更に活発に行い、地域に密着した事業所作りに取り組んでいきたい。コロナ禍でも取り組める内容（紙漉きワークショップ・バザー・交流行事・情報発信など）を検討したい。